

次世代農業用ロボット「DONKEY」(仮称) 開発コンソーシアム参画について

ユアサ商事株式会社(本社 東京都千代田区 代表取締役社長 田村博之)は、自律多機能型農業用ロボット「DONKEY(仮称)」の開発コンソーシアム(以下、「本コンソーシアム」)に参画いたします。

本コンソーシアムは、ユアサ商事のほか、株式会社日本総合研究所(本社 東京都品川区 代表取締役社長 瀧崎正弘氏)、株式会社アルプス技研(本社 横浜市 代表取締役社長 今村篤氏)、三井住友ファイナンス&リース株式会社(本社 東京都千代田区 代表取締役社長 橋正喜氏)、慶應義塾大学、栃木県茂木町のほか、国内の輸送機器メーカー、システムインテグレーターなどから構成されます。

1. 本コンソーシアム参画における当社の目的

- (1) これまで培ってきた総合力(商品力、ネットワーク、知見など)を活かし、農業用ロボットの開発に携わることで、農業市場へ進出いたします。
- (2) 現場から得られる情報やニーズをもとに、農業市場における当社グループならではの商品提案や、サービス提供に活かしてまいります。
- (3) さまざまな企業・自治体・大学とのネットワークを構築いたします。

2. DONKEY(仮称)のコンセプト

DONKEY(仮称)は、以下の特徴を持つ自律多機能型農業ロボットです。

- ・ 本体には基本機能として、自律稼働・自動追従、監視・防除、画像取得、情報計測、通信機能などを標準装備
- ・ 着脱式のアタッチメントを本体に追加することで、運搬・作業管理、除草などの機能の拡張が可能
- ・ 作業中に取得できる各種データをDONKEY(仮称)ユーザーの共有サーバーに蓄積
データ解析による栽培ノウハウ抽出・収穫予測や外部システム(データ)との連携を通じて、農業の生産性改善、研究開発の促進、需給マッチング・調整、農業金融への情報インフラ提供など、新規ビジネスのためのプラットフォームとして機能

3. DONKEY開発コンソーシアム(仮称)の概要

次の3つのタスクフォースでの検討を通じて、自律多機能型農業ロボット「DONKEY(仮称)」の社会実装を目指します。

(1) 用途開発タスクフォース

DONKEY(仮称)の用途を検討します。作業性ばかりでなく、コスト効率にも十分考慮しながら、農業経営に真に寄与する用途を見いだします。

(2) システム開発タスクフォース

DONKEY(仮称)のプロトタイプを開発します。これまで株式会社日本総合研究所が検討してきた用途のほか、用途開発タスクフォースでの検討結果を実現するためのアタッチメントおよびデータのプラットフォームを製作し、農業生産者が検証します。なお、年内にはプロトタイプを完成させ、2018年3月までに圃場での実証を開始する予定です。

(3) 事業性検討タスクフォース

DONKEY(仮称)の事業の成長戦略を検討します。新たなアタッチメント(用途)の開発計画を含め、市場投入から普及・浸透までの計画を策定します。また、DONKEY(仮称)が収集するデータを活用した新サービスの開発や、農業を核とした地域経済のエコシステムを構築するための構想の検討も行います。



ベースモジュール+走行アタッチメントのイメージCG(画像提供 日本総研)

4. 活動期間

2017年11月6日 ~ 2018年3月31日

《本件に関するお問合せ先》

ユアサ商事株式会社 総合企画部 TEL:03-6369-1133 E-mail:souki@yuasa.co.jp